

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0673000477		
法人名	医療法人 徳洲会		
事業所名	グループホーム ひまわりの丘		
所在地	山形県東田川郡庄内町松陽1-1-6		
自己評価作成日	平成 23 年 11 月 4 日	開設年月日	平成 14 年 3 月 26 日

事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓ このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19番6号-2F		
訪問調査日	平成23年 11 月 30 日	評価結果決定日	平成 24 年 1 月 4 日

(ユニット名 太陽の広場)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・庄内町で行なっている事業で、ご長寿サポーターの方よりボランティアの登録をしていただき、定期的に入っていただいております地域とのつながりのある施設。
・生活意欲を維持していただけるよう、調理の下準備として食材切りなどは殆ど入居されている方より行なっており、手工芸や運動する機会も設け、生活意欲の維持向上につなげている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

庄内町で行われている「ご長寿サポーター」の方が13名ほど登録され、定期的に訪問されている。この方々を通じ、利用者が地域とのつながりや、日常的な、コミュニケーションを楽しむことが出来る環境となっている。又、法人の、病院や老健施設等が隣接して連携しているので、医療面においても安心して生活出来る事業所となっている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
・理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	徳洲会の理念に基づき、地域密着型サービス事業所として、地域で暮らし続けていけるという理念を謳い、「迷った時の道しるべ」として職員は共通の認識をもち実践している。	毎朝法人の介護老人保健施設に各事業所が集まり、法人の理念を唱和している。事業所としての理念も地域密着を基にはしているが、日常のケアの中で立ち戻るように検討が必要である。	事業所独自の理念を再度職員とともに検討し、日々のケアに繋げていくことが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設されている老健と共に地域とのつながりを大切にしている。町内会や子供会との（花壇の提供、花植え、草取り）交流をはじめ、ご長寿サポーターの受け入れ、自治会、警察署、消防署、家族会との防災ネットワーク連絡会も提携している。	「町をきれいにしましょう」に参加して、花壇を提供し年2回子供会、家族会とともに草とり、花植え等を行なっている。防災ネットワーク連絡会に参加して警察署、消防署、自治会と提携している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学校で企画している体験学習の受け入れ。町で企画しているご長寿サポーターの研修の受け入れ。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している。サービス内容・入居状況とレク活動の報告、医療連携体制下の看護師による入居者の現状報告、通所介護の利用状況を報告し、出席者から意見を聴取、町の職員からの意見を聴取し、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催している。前回より、ボランティアのご長寿サポーターも参加し、日頃の利用者の意見等も代弁してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当施設の現状報告や連絡、解らないことなどの相談にたいして、迅速な対応をしていただいている。	運営推進会議の参加メンバーになっており、事業所の現状を理解してもらっているので相談しやすい関係となっている。又ご長寿サポーターを受け入れており、事あるごとに相談できる関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	併設老健と合同の身体拘束委員会に当職員も委員として籍を置いており、毎月の委員会会議や毎年必須の勉強会、施設ないの巡視を行っており、職員の身体拘束に関する意識づけはできていると認識している。	法人の老人保健施設と合同で身体拘束委員会をつくり、勉強会に参加し施設、事業所の巡視も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自己評価評価項目(6)に潤じている。必須の勉強会も行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町が主催した研修会へ参加し、内容については職員に回覧している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に今後の意向を確認し、特養への申請も含め説明を行い、確認印をいただいている。契約書は押印する前に自宅に持ち帰って熟読できるように考慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者一人一人に担当の職員を配置しており、その役目を担っている。意見箱も設置しており、相談・苦情については、相談・苦情処理委員会で対応し、貴重な意見として反映につなげている。	利用者各自の部屋の扉に担当者の写真を貼り、担当者の得意な事や、PR等をしている。利用者、家族に積極的に話し易い工夫をしている。苦情委員会で意見、苦情に対応している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議で話し合われた内容については、議事録にし全職員に回覧している。毎月のフロア会議や連絡会議での話し合いで、運営に関する事については運営会議に取り上げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、(上期・下期)各職員からの自己評価に対し、個人評価を行い個々の努力や実績を称えている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	変則勤務であるため、自施設での研修会に参加出来ない場合でも、教育委員会で年間計画を立て、グループ内の老健でも研修会に参加出来るよう配慮している。法人外の研修についても組織全体の理解は深い。	グループ内の老人保健施設の研修に参加出来る様に配慮されている。職員の研修は各年度において年間計画が作成され、それに参加することになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	庄内地区GH連絡協議会に所属しており、今年度もスクラムチャレンジ2011に参加しており、研修会への参加や情報交換できる場もあり、サービスの向上につなげられている。	庄内地区のGH協議会、スクラム研修に参加して、他の事業所と交流し情報交換してサービスの向上につなげている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居においては、本人との面談を行い、原則として本人から入居の承諾を得てからの入居となる。また、可能な限り自宅での生活配置を取り入れ、担当職員を置きより早く安心でき、馴染んでいただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決定した場合での新規面談だけでは聴き取れない事も多くあるため、入居後も面談や電話連絡を欠かさない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の施設・包括ケアマネからの情報や家族からの情報を基にプランを作成し、本人・家族からの同意を得て実施し、2週間後から1月後に職員の意見や看護師の意見を踏まえて見直しを行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護させていただいているという気持ちを忘れずに支援し、介護されていると感じさせることのないよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況を把握しながらも、家族の負担や苦情とならないよう、家族との面会や外出・外泊する機会を設けていただけるようお願いしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能であればご家族以外の面会のお願いや、外出や外泊時にはできるだけサポートできるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の人間関係を把握していると認識している。仲の良い者同士と一緒に過ごすことが出来るよう配慮したり、陰湿なムードが感じられる時は職員が間に入るなど、和やかな雰囲気の中で過ごすことができるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても面会に来ていただいたり、ボランティアに来ていただいたりと関係は続いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望や意向については本人本位になるように家族に説明し、プランに基づいた介護支援を記録に残している。介護記録以外でも入居者の専用のノートを活用し、個々の情報や気づきを書き、全職員が把握できるようにしている。	現在利用者の思いや意向を反映した、アセスメントを目指しているが、現状ではリスクマネジメントやADLのアセスメントとなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用されている施設や包括ケアマネ・家族からできる限りの情報を得よう心がけている。	である	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症の進行状況や身体機能の状態は、日々支援している中やフロア会議でも話し合い、全職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの評価はフロア会議内で行い、計画作成担当者は、看護師の意見や介護職員の意見と、本人や家族の意向を取り入れ、プランの見直しと作成を行なっている。	アセスメント同様現在利用者の気持ちを反映したものとなるよう検討しているが、現在は支援計画書は施設プランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や職員の行なった介護支援については、記録に残している。記録いがいでも専用のノートを活用しており、ケアプランの評価にも活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療保険での訪問看護との医療連携、自治会との非常災害時の協力体制、町で発行しているオムツ券の支給、床屋割引制度、インフルエンザの予防接種の支援事業所等、様々な支援を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や往診は本人や家族の希望にそっている。緊急時の対応も医療連携体制もできており、安心できる環境にある。	法人病院が隣接していて、往診や受診といった医療面に関しては充実している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の下で、入居されている方の状態の変化については随時情報を伝え、看護師からも迅速な対応をしていただけており、安心して介護に携われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関については、緊急時や入院・退院においても、グループ内協力病院の医師・地域相談員との連携はなされている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に特養への申請も含め、意向の聴取を行っている。終末期のあり方については、随時話し合いの場を設けている。	入所の時に重度化した時の話をして、法人病院との連携ができていること、終末期は随時話し合いをして対応する事を説明している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は併設老健の医師や、医療連携体制下の看護師の指示によるよう備えている。緊急時の対応などの勉強会も教育委員会にて企画されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会により、災害訓練は年間計画に沿って実施し、消防署職員から立会いしていただいている。地域自治会とも協力体制を締結しており、10/23に合同の災害訓練を実施している。	地域の防災ネットワークに参加して年間計画で実施している。年3回の総合訓練が計画されており、消防署や地域との連携の下訓練が行われている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー・個人情報の保護・接遇の勉強会を実施している。日々一人一人に合った介護支援の実施に努めている。	職員は各自勉強会に参加して再確認している。ケア現場で不適切な時はその都度管理者が指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者されている方々が可能な限り、自己決定による生活を送られるよう配慮に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日をどのように過ごすかは、本人の意向に副よう努めており、その都度の確認も行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容の活用や家族が美容院に連れて行かれるなど様々である。身だしなみについても、本人の意向や整えてあげるなど、いつも身綺麗にしているよう気配りに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を聞き入れた献立の作成に努めている。野菜を切る・刻むなど、できるだけ入居者が関われる機会を多く設けている。	利用者に聞き取りしながら献立を作っている。ご長寿サポーターの協力もあり、利用者も下ごしらえ等に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が献立を作成しているが、定期的に併設された老健の管理栄養士からの確認と指示をいただき、栄養が偏らないように努めている。食思の低下している方については、主治医や看護師に報告・相談し、栄養補助食品など状態に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医による訪問診察や口腔ケアの指導に入られた際、相談し指示をいただき実践している。朝・夕(個人により毎食後)歯磨きと口腔清拭を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄サイクルの把握に努め、トイレ誘導は定時の誘導以外でも随時誘導し、失禁の予防とオムツ外しにつながるよう努めている。	排泄サイクルのチェックが行われており、失禁の予防につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の有無を確認しており、排便の無い日が続いている時は、看護師に報告し指示をいただいている。便秘予防についてのアドバイスもいただいている。実践している。主治医にも情報提供し、相談・指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回(月、水、金)の午前中に入浴している。入浴を楽しむ事なので、本人の意向を大切にしている。	週3回(月、水、金)の午前中に入浴している。入浴を楽しむ事なので、本人の意向を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室以外でも、茶の間のソファで休まれるなど、特に制限はしておらず、本人の希望を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、薬情簿がありいつでも確認ができるようになっている。服薬のマニュアルに沿って、二重のチェックを行い、事故防止に努めている。状態の変化が見られた時は、主治医・看護師に報告し指示をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手工芸や歌うなど無理な促しはせず、自由に過ごしていただいている。調理に関する食材を切る・ちぎる作業は可能な限り入居されている方々に行なっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族に外出・外泊のお願いをしている以外でも、バスハイクや施設外の散策、併設施設への慰問の見学など、できるだけ外に出る機会を設けるように努めている。	併設の施設の慰問行事を観にいたり、バスハイクで花見、もみじ狩を楽しみにしている。外出や散歩だけではなく、ちょっとした気晴らしに外の空気を感じ気晴らしとするような工夫も今後は検討。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金規程により、家族からお預かりしている方、大きな金額ではないが自分で管理している方など、個々に対応している。買い物については、職員が買ってきたり一緒に買い物に行くなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙に関しては特に制限はしていない。希望があれば惜しむことなく支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は季節を感じられるように花を置いたり、壁には入居されている方々の作品を展示している。排泄介助の際に臭いが拡散しないよう工夫もしている。	居間はボランティアの中学生の作品が季節毎に展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自己評価項目(21)に準じる。居室、ホール、茶の間など、希望される場所が提供できる環境にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の自宅での配置、施設での配置に配慮し、出来る限り戸惑いが少なくなるように努めている。場合によっては慣れ親しんだ物の持ち込みも受け入れている。	馴染みの物が持ち込まれ、その人らしい部屋作りが工夫されている(写真等)	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は手すりを設置しており、安全対策はできている。トイレは入居されている方毎に決めていただき、場所の解るよう表示し、慣れていただけるよう工夫している。		